

そんな墮落を上層部が許すはずもなく腐敗を正すために、KGB のウラジーミル・アジツポが派遣される。

彼は所長に「昔なら黙って銃を渡したが幸い時代が違う。いますぐ辞表を書くがいい」と迫り、彼自身が新所長に就任する。こうして研究所を監視下に置いたアジツポは、次第に特別実験グループと呼ばれる被験者の若者たちと親しくなっていく……。

後半に挿入されたテロップの通り、本作はイタリアの詩人・政治家、ダンテ・アリギエーリによる長編叙事詩「神曲」の「地獄篇」で描かれた9つの地獄の層にちなんだ9章で構成されている。本作で共同監督を務めたイリヤ・ベルミヤコフ監督は、「**国家が社会的に荒廃していく状況が迫ったときに、どのように気づき、対処するかを、映画という媒体を通して学ぶことはとても重要だと思います。本作は、権力の上層部が超過激派達と、どのように関わっているかという問題を扱っており、単に分析するだけでなく、これらの状況を見たときに皆さんに深く感じて欲しいのです**」と語っている。

この超大作を観れば、第一弾『DAU. ナターシャ』をパズルの1ピースとする、『DAU.』の広大な一枚絵が見えてくる。スタンリー・キューブリックの『時計仕掛けのオレンジ』やジョージ・オーウェルの代表作「1984」が描いたディストピアを現代にアップデートさせ、その先の深淵に迫ろうとするような鬼気迫る一大叙事詩に、**映画評論家の柳下毅一郎氏は、「十年に一度の衝撃！」とコメントを寄せている。**

本作はこのコロナ禍によって正当な評価を下されることがなく（米批評家サイト、ロッテントマトのレビューは2021年7月16日現在3つしかない）、また本国ロシアでは上映禁止となっただけの作品である。だが、この日本では第一作目の『DAU. ナターシャ』が好評を博したことで、第二作目にして完結編ともいえる『DAU. 退行』が世界で劇場初公開となる。

ファシズム、優生学、性搾取、差別……人間の暗部を余すことなく抉り出し、現代社会への警鐘を鳴らす本作は、映画史の闇に埋もれてしまう前に評価されるべき傑作である。この貴重な機会にぜひ劇場で本作をお楽しみ下さい。

【脚本・監督】イリヤ・フルジャンスキー、イリヤ・ベルミヤコフ 【撮影】ユルゲン・ユルゲス

【出演】ウラジーミル・アジツポ／ドミトリー・カレージン／オリガ・シカバルニャ／アレクセイ・プリノフ

2020年／ドイツ、ウクライナ、イギリス、ロシア合作／ロシア語／369分／ビスタ／カラー／5.1ch 【原題】DAU. Degeneration 【日本語字幕】額賀深雪

【字幕監修】松下隆志 【配給】トランスフォーマー / R18+

公式 HP : www.transformer.co.jp/m/dau.degeneration/ Twitter&Instagram : @DAU_movie © PHENOMEN FILMS

8月28日[土]より、名演小劇場にて公開！

東京：シアター・イメージフォーラム

『DAU.退行』
公開記念

名演小劇場にて『DAU.ナターシャ』おさらい上映決定！

8月14日[土]～8月27日[金]

第70回ベルリン映画祭 銀熊賞(芸術貢献賞)受賞
「ソ連全体主義」の社会を現代に蘇らせる一前代未聞の手法で人間の本質に迫る、狂気のプロジェクト！



オーディション人数約40万人、衣装四万着、
欧州最大1万2千平米のセット、
主要キャスト400人、エキストラ1万人、
制作年数十五年……
壮大なスケールで描き出す。
人間の悪と愛に関する研究

<STORY> ソ連の某地にある秘密研究所。その施設では多くの科学者たちが軍事的な研究を続けていた。施設に併設された食堂で働くウェイトレスのナターシャはある日、研究所に滞在していたフランス人科学者と肉体関係を結ぶ。言葉も通じないが、惹かれ合う2人。しかし、そこには当局の監視の目が光っていた。

【監督・脚本】イリヤ・フルジャンスキー／エカテリーナ・エルテリ 【撮影】ユルゲン・ユルゲス『ファニーゲーム』

【出演】ナターリア・ベレジナ／オリガ・シカバルニャ／ウラジーミル・アジツポ 【原題】DAU. Natasha

2020年／ドイツ、ウクライナ、イギリス、ロシア合作／ロシア語／139分／ビスタ／カラー／5.1ch / R18+

【日本語字幕】岩辺いづみ 【字幕監修】松下隆志 【配給】トランスフォーマー © PHENOMEN FILMS

